

## プロジェクト 次世代につなぐ酪農産地づくり

## 目標

・青森県の生乳生産量 R4：76,000 t → R10：76,000 t

## 挑戦する内容

- ・乳用牛1頭当たりの生産性向上に向けた遺伝的能力の把握
- ・乳用後継牛の効率的な生産の推進
- ・省力化機械などの積極的な導入による効率的な経営の確立
- ・自給飼料の積極的利用による高品質で低コストな生乳生産
- ・経営継承を含む担い手の確保

関係者の声  
＝対話

- ・乳用牛の遺伝的能力を把握したい（生産者）
- ・様々なデータの活用方法を指導してほしい（生産者）

## 役割分担

- ・農協 : 飼料販売、飼育管理指導
- ・牛乳冷却処理所 : 衛生管理指導
- ・産技センター : 乳用牛群検定に基づく飼育管理指導
- ・県、市町村 : 酪農家への飼育管理指導

## 変革後の姿

- ・酪農家個々の生乳生産基盤が強化されることにより、経営が安定
- ・輸入飼料や資材の価格高騰などに左右されない、ゆとりある酪農産地が形成

## 令和6年度計画

## 挑戦する内容

- 1 乳用牛1頭当たりの生産性向上に向けた遺伝的能力の把握
  - ・農家が行うゲノミック解析を支援するとともに、県内牛群の遺伝的能力評価値の把握
- 2 乳用後継牛の効率的な生産の推進
  - ・農家が行う性選別精液活用を支援し、効率的な後継牛を生産
- 3 省力化機械などの積極的な導入による効率的な経営の確立
  - ・国の事業等を活用した省力化機械の導入支援
- 4 自給飼料の積極的利用による高品質で低コストな生乳生産
  - ・飼料価格の高騰等に対応した新たな飼養規模別経営指標の作成
  - ・畜産協会や農協、県等による飼養規模別経営指標を活用した改善策の検討と農家巡回等
- 5 経営継承を含む担い手の確保
  - ・意向に基づく体制の整備及びマッチングを活用した継承支援
  - ・現場見学研修やインターンシップの実施



餌寄せロボット



搾乳ロボット

## 対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を事業構築に反映（8月、1月）
- ・飼養管理技術研修会や農家巡回を通して、経営改善技術を農家に周知するとともに、関係者の意見交換の場を設定（2月）
- ・畜産協会や農協等が参画する農家巡回において、意見交換の場を設定（7～10月、随時）
- ・ゲノミック解析活用に向けた研修会を開催し、県内牛群の遺伝的能力評価値の把握に向けて農協等の関係機関と定期的に情報交換（2月）
- ・インターンシップ受入農家において畜産業へ関心のある人財との意見交換の場を設定（6月、随時）